

ぼらせん

仙台市ボランティアセンター広報誌

BORASEN

vol.23

2024
Autumn

特集

東北福祉大学

災害ボランティア活動



災害ボランティア活動(2回目)に参加した学生の皆さん

令和6年能登半島地震の 被災地・被災者支援に向けて

東北福祉大学では能登半島地震の早期復旧・復興の一助として、石川県志賀町に入り、災害ボランティア活動を行っています。本学とパートナーシップ協約を締結している仙台市社会福祉協議会が、志賀町災害ボランティアセンターの支援に入っていることから活動の拠点となりました。

1回目は5月に学生5名、2回目の7月にも学生5名の計10名が現地で災害ボランティア活動を行いました。被災地で災害ボランティア活動に取り組む学生たちの熱い想いをご紹介します。



現地での活動の様子

Contents

特集

- 東北福祉大学
能登半島地震災害ボランティア活動…1-3
- 企業の社会貢献 ……4-5
・株式会社 ベガルタ仙台
・一般社団法人 MOTTO
- 子どもの居場所づくり支援 ……6
・よりみち〜のんびり食堂
- ボランティアセンターからのお知らせ …7
- イベントインフォメーション ……8

特集

東北福祉大学の社会貢献

災害ボランティア活動

東北福祉大学

心に寄り添い、 支え合うことの大切さ



室内片づけの様子(2回目)



家具の運び出しの様子(2回目)



災害ゴミの分別を行う様子(2回目)



活動に参加した学生と志賀町社協の職員の方(1回目)



災害ボランティアセンターでのミーティングの様子(1回目)



落ちた瓦の片付けをする様子(1回目)

一 被災地での貴重な体験

能登半島地震発生後、学内で災害ボランティア活動の希望者を募ったところ、たくさんの学生から応募がありました。現在まで2回に分け、10名の学生が石川県志賀町を拠点に災害ボランティア活動を行ってきました。

片道約10時間かけて、ようやくたどり着いた被災地での活動は被災して使えなくなった家具などを倉庫の2階から運び出し、軽トラックに積み込んで、震災ごみ置き場まで捨てに行くという猛暑の中での力仕事でした。

「ダンスや冷蔵庫、畳など、重たいものを運ぶのは大変でしたが、やってよかったです」(2年生・湯田依吹さん)、「高齢化が進んでいる地域。いざというとき若い力が必要だと感じました」(3年生・堀野仁海さん)。

2日以上はかかると言われていた作業を一日半で完了させたという学生たち。活動中に声をかけ合い、

十分な意思の疎通が図れたことがチームワークの良さにつながりました。

「東日本大震災を経験したからこそ、もっと学びたい、もっと経験を活かしたいという強い想いがあります」(4年生・菅井万緒さん)、「これまで培ってきた防災や減災に関するノウハウを今後は地域でも活かしていきたいです」(3年生・櫻井溪さん)、「ごみの分別や制度の立ち遅れについても調べてみようと思います」(2年生・金谷紅さん)。

災害ボランティア活動というかけがえのない体験は、学生の人生に大きな意義があったと思います。被災された皆さんからの「ありがとう」という言葉が力になり、学生ひとりひとりの可能性の翼はさらに大きく広がっていくことでしょう。東北福祉大学では今後も継続して現地での活動を行っていきます。

大学生の VOICE



VOICE 01

総合福祉学部
行政福祉学科 4年

菅井 万緒さん

現地では畳を運んだり、倉庫から家具を運び出したりというお手伝いをしました。想像以上に復興が遅れているなという印象でした。被害状況などは現地に行かないと細かく知ることができなかつたと思うので、とても勉強になりました。今回の活動は2日間だけでしたが、東日本大震災の時の恩返しは少しはできたのではと思います。私たち大学生としてできることは被災者の心に寄り添うことだと思うので、自分ができることを今後も精一杯行いたいです。

VOICE 02

教育学部
教育学科 3年

堀野 仁海さん

家具などを倉庫から運び出すことと、畳の入れ替え作業を担当しました。作業中、依頼者の方が「遠くからきてくれたんだね、大変だったでしょう」と何度も声をかけて下さり、本来被災されて辛いはずの現地の方のほうが、むしろ温かく迎えて下さって、人の温かさを感じました。どんな活動であれ、困った時はお互い様です。日本はそんなに大きくないのだから、日本の各地で何か困ったことがあったら日本全国のみんで助け合えばいい、という人の支え合いの気持ちを今回の活動では実感できました。

VOICE 03

教育学部
教育学科 2年

金谷 紅さん

家を解体するために、必要なものも捨てるものも、とにかく移動させるという、自分ではあまり考えたことのない作業内容でした。日常的に必要なごみの分別が、逆に災害時は復旧の足かせになっていることも知りました。活動場所が、共同で倉庫として使っている建物ということもあり、依頼者さん以外にも、ご近所さんや倉庫を使っている方などからお声がけいただきました。皆さん笑顔で元気な声で挨拶してくれて、現地の状況を見て悲しい気持ちになっていたときにその笑顔を見たので、挨拶や笑顔ってすごいものだなと感動しました。

VOICE 04

健康科学部
医療経営管理学科 3年

櫻井 溪さん

現地では依頼者さん宅の畳を移動先まで運んだり、廃棄する畳を仮置き場に運んだりする作業などを行いました。2日以上はかかると言われていた作業を1日半でこなしました。これもお互いに細かく意思の疎通を図り、臨機応変に対応できたからだと思います。今回のボランティア活動を通して、心の面で学ぶことがたくさんありました。今後も視野を広げ、いろいろなボランティアに参加する予定です。その時は主体性を持って積極的に話しかけ、今回のようなチームの結束を自分から作れるようになりたいです。

VOICE 05

総合マネジメント学部
産業福祉マネジメント学科 2年

湯田 依吹さん

実際に現地に行ってみると復興はあまり進んでいませんでした。家具などを2階から1階に運び、ゴミ置き場まで軽トラックで移動させる活動をしました。重い物が多く大変でした。しかし、被災地の人たちに飲み物をいただいたり感謝の気持ちを伝えられ、大変だと思う気持ちよりもボランティア活動に参加できて良かったと自分の中で気持ちに変化していきました。今回のボランティア活動を通して、被災地の人たちは困っていることがまだまだ多くあると本音を聞くことができました。

広げることと続けること



▲フードドライブ支援事業



▲夏のボランティア体験会



▲フードドライブ支援事業

ベガルタ仙台ではフードドライブ支援事業として、家庭で消費しきれない未使用食品などをホームゲームの際にスタジアムへ持ち寄っていただき、食料支援を必要としている方に無償で提供する活動を行っています。フードドライブに協力してくださった方には、抽選で選手のサイン入りグッズなどが当たる特典を設けています。SDGs推進室室長の小野寺仁さんは、「より多くの皆さんに興味を持っていただけるよう、ゲーム的な要素を取り入れています。支援の輪を広げるためにも、ぜひスタジアムに足を運んでほしいですね」と話されます。

また、ベガルタ仙台では、毎年中学生以上を対象とした「夏のボランティア体験会(仙台市社会福祉協議会主催)」の参加者を受け入れ、ホームゲームの運営に関するボランティア活動を行っています。今年の夏は2日間で30名の生徒が参加し、ゲートでのチラシ配布やエコステーションのサポートなど、スタジアムならではのボランティア活動を体験しました。「ひと試合

ごとに多くの方が裏方として支えていることを実感できたはずです」と語るのはファンコミュニケーション部の齋川滉さん。大切なのは活動を広げること、続けていくこと。ベガルタ仙台でのボランティア活動は、地域の方にとって、かけがえのない心の財産になっています。

ベガルタ仙台ボランティア募集



ホームゲームで運営等の活動を行う「ベガルタ仙台ボランティアクラブ」のメンバーを募集しています。詳しくは、TEL.022-216-1021 株式会社ベガルタ仙台ボランティア係まで。

みんなの“もっと”をサポート



▲ユニバーサルビーチプロジェクト深沼



▲みんなで楽しむ海での遊び

障害のある方も、その家族も「みんなで海を楽しもう」を合言葉に、仙台市若林区の深沼海水浴場で開催されているのが、ユニバーサルビーチプロジェクト深沼です。「障害のある方の“もっと”やってみたいという想いに寄り添いながら、みんなで一緒に楽しんでいます」と語るのは、プロジェクトの企画・運営にあっている一般社団法人MOTTO(モット)の代表理事、齋藤義久さんです。

同プロジェクトでは、一年前の「夏のボランティア体験会(仙台市社会福祉協議会主催)」参加の中学・高校生を受け入れ、誰もが安心して楽しめる場の提供を通じて、社会の中で支え合うことの大切さを知ってもらい、より継続的なボランティア活動のきっかけづくりにつなげました。あいにく今年は台風の影響で中止になりましたが、これまで参加したことのある生徒の間からは、「自分でも楽しむことができた」「また是非やってみたい」などの声が聞かれました。

「障害の有無にかかわらず、ひとりひとりのやりたいこ

とが“もっと”できるように、人やモノの力を借りて、心のバリアフリーを目指していくこと、それがMOTTOの願いです」と語る齋藤さん。「ユニバーサルビーチは、今や全国に広がっています。海での遊びに限らず、いろいろな場面で、みんなの“もっと～したい”という想いに応えていきたいですね」。

みんなの“もっと”のために



一般社団法人MOTTOでは、障害のある方の水泳や陸上、カヌーなど、様々な体験を応援しています。冬はスキー教室も予定していますので、ご興味のある方はお問い合わせください。

LINE 公式アカウント
友達募集中!



子どもの居場所づくり

～ 気軽に誰でも参加できる地域の居場所～

よりみち～のんびり食堂（仙台市宮城野区）



多くの皆さんの協力に支えられて

2019年4月に有志で任意団体の「よりみちの会」を立ち上げ、食を通した子どもたちのもうひとつの居場所づくり、地域の皆さんとの交流の場づくりとしてスタートした「よりみち～のんびり食堂」。0歳から気軽にどなたでも参加でき、秋の芋煮やクリスマス、ひな祭りなど、季節感のあるメニューを提供しています。毎回テーマを決めてチャレンジする工作や、季節にちなんだ交流イベントも楽しみのひとつ。希望者には宿題などの学習サポートも行っています。

「最初は職場の元同僚や親せき、友人たちに声をかけて始めましたが、どんどんネットワークが広がっていき、今では高校生や大学生、社会人、主婦、シニアの方など、多彩なキャリアの皆さんがスタッフとして関わってくださっています」と声を弾ませるのは、代表の植村暢子さんです。「『家では食べない野菜も、ここでは全部食べたのでびっくり。嬉しかった』というお母さんや、『工作がおもしろい』『みんなに会えるのが楽しみ』というお子さんなど、地域の皆さんの喜ぶ声を聞いていると、やりがいを感じますね」。

気軽に立ち寄って、心豊かなひとときを過ごせる「よりみち～のんびり食堂」。多くの皆さんの協力を得ながら、地域のかけがえのない居場所となっています。



抜群のチームワーク！



みなでいただきます！



七夕の工作にチャレンジ！



夏らしいサラダめん！

INFORMATION

「よりみち～のんびり食堂」

に関するお問い合わせは

メール kagayakinobuko@gmail.com

担当 代表 植村さん

仙台市ボランティアセンターからのお知らせ

第6回 ごみ拾いボランティア交流会

参加者募集中

当日くじ引きにより決定した3名1チーム（職場や友人同士での申込みも可）で行うチーム対抗戦のごみ拾いです。時間内に回収したごみの量や歩数で競い、上位入賞チームには豪華景品も!? ボランティア活動に取り組むきっかけや、企業や団体同士の交流の場としてぜひご参加ください! これまでの開催の様子は仙台市社協公式YouTubeチャンネルでご覧頂けます。

開催日

令和6年10月5日(土)
8:40～10:00(雨天中止)

持ち物

- 歩数計・デジタルカメラ
- 名刺(参加者との情報交換のため)
- 飲料水・タオル 等

申込・問合せ

仙台市ボランティアセンター
TEL 022-262-7294



障害理解サポーター養成研修

参加者募集中
定員30名

障害のある方が講師となり、実体験を踏まえた講義を行います。一緒に「障害」について考えてみませんか?

開催日

令和6年10月26日(土)
10:00～11:30

場所

仙台市福祉プラザ 1階プラザホール

対象

仙台市内在住もしくは
通勤・通学をしている方

申込・問合せ

仙台市ボランティアセンター
TEL 022-262-7294



イベントインフォメーション

ボランティアフォーラム

「地域と学生と企業の出会いの場」をテーマに開催します。大学生や企業、団体の活動紹介や、ボランティア体験コーナー、福祉施設の飲食物販売など盛沢山の内容となっています。お気軽にお越しください。



▲東北学院大学「プレイヤー1」によるお笑いステージ



▲株式会社89ERS代表取締役社長 志村雄彦氏による講演

日時 令和6年9月28日(土)
12:00～15:00

会場 仙台市福祉プラザ
2階ふれあいホール

申込・問合せ 仙台市ボランティアセンター
TEL 022-262-7294

参加申込

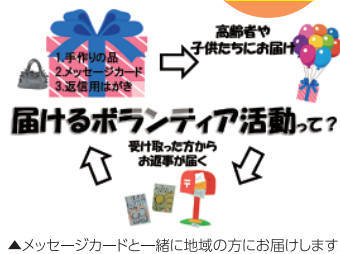
ボランティアフォーラムへの
参加お申込はこちらより▶



届けるボランティア活動 ～非接触型ボランティア活動サロン～

地域の高齢者や子どもたち等に向けて、手作りの品を作成しメッセージカードと一緒にプレゼントする“届けるボランティア活動”をしてみませんか？

あなたからのプレゼントが地域の方々の笑顔につながります！どなたでもお気軽にご参加ください！



日時 令和6年4月～ 令和6年10月
第1・3土曜日 10:00～15:00
(お昼休憩12:00～13:00)※出入り自由

場所 仙台市福祉プラザ4階 仙台市ボランティアセンター

対象 ボランティア活動に興味のある方

内容 地域の方々に向けたプレゼント
(手作りの品・メッセージカード・返信用はがきの3点セット)の作成

仙台市フードドライブ 支援事業

食品ロス削減に取り組めるボランティア活動です！
仙台市内に事業所のある法人・団体募集!!



賞味期限が
1か月以上先の
常温保存ができる食品
(生鮮食品以外)を回収

生活困窮者や
支援団体・施設、子ども食堂等へ
提供されます。



青葉区ボランティアセンター

仙台市青葉区二日町4-3 仙台市役所二日町分庁舎1階 TEL022-265-5260

青葉区宮城支部事務所

仙台市青葉区下愛子字観音堂27-1(仙台市宮城社会福祉センター内) TEL022-392-7868

宮城野区ボランティアセンター

仙台市宮城野区原町3-5-20 メゾン坂下1階 TEL 022-256-3650

若林区ボランティアセンター

仙台市若林区保春院前丁3-1 若林区中央市民センター別棟1階 TEL 022-282-7971

太白区ボランティアセンター

仙台市太白区長町南3-1-30南部アーチル1階 TEL 022-248-8188

泉区ボランティアセンター

仙台市泉区七北田字道48-12(泉社会福祉センター内) TEL 022-372-2603

▼ 掲載記事に関するお問い合わせは仙台市ボランティアセンターまで ▼



社会福祉法人

仙台市社会福祉協議会

仙台市ボランティアセンター

〒980-0022

仙台市青葉区五橋2丁目12-2 仙台市福祉プラザ4階

TEL 022-262-7294 FAX 022-216-0140

▼ホームページはこちら

<http://www.shakyo-sendai.or.jp/>

仙台市ボランティアセンター

検索

